

# 第41回 公益社団法人 日本看護科学学会 学会総会 議事録

日 時 2021年12月4日(土) 16:30~17:20

場 所 オンライン開催 公益社団法人日本看護科学学会事務所ほか

出席者数 2,028名(オンライン開催出席 285名、委任状 1,743名)

議 長 百瀬 由美子

## I. 開 会

現正会員数 10,005名中、開会時オンライン開催に出席した正会員数は 125名、有効委任状提出者は 1,743名、合計 1,868名であり、日本看護科学学会定款第 45条に定められた要件を満たしていることが確認され、第 41回公益社団法人日本看護科学学会総会が開会された。

司会は法橋尚宏副理事長が、書記は橋野明香氏(広島大学)が行った。

## II. 理事長挨拶

堀内成子理事長より、以下の挨拶があった。

2021年度6月より理事長を拝命し、今回が初めての学会総会である。コロナもデルタ株の感染が収束してきたのも束の間、オミクロン株による感染拡大の予想が難しい状況になっている。このコロナ禍により日常生活も大きく変わったが、昨年引き続きオンラインとして2回目の学術集会の開催となった。オンラインでの開催であっても、色々な方との議論がなされ、研究の交流や新しいヒントを得る機会となれば幸いである。

百瀬学術集会会長により本日から第41回学術集会のライブ企画の運営を行っていただいております。現在のところ3,500名余りの方に参加頂いております。イングリッシュセッション、交流集会等々、沢山の発表が行われており、活発な議論を期待しているところである。

日本看護科学学会は今年度、正会員数10,000人を超えた。本学会総会にも多くの方々に参加して頂き感謝している。本日は今期の事業についての説明、優秀論文の表彰などを行う予定であるので、ご意見等をいただければと思う。

## III. 議長指名および議事録署名人の承認

定款第44条に従い、議長に第41回学術集会会長の百瀬由美子氏が指名された。また議事録署名人については、オンライン会議での開催でもあり、議長から岩田由香氏(横浜市立大学)、大河内彩子氏(熊本大学大学院)の2名が指名され、承認された。

## IV. 報告事項

### 1. 理事長のビジョンと運営方針

堀内理事長より、画面に示された内容をもとに以下の説明があった。

今年度の理事会は、前期の理事会の方針であった若手研究者の育成を引き継ぎつつ、新たな事業を促進していきたい。さらなる発展として3つの柱を立てている。

(1) 若手研究者の育成

- ・論文公表の場（和文誌・英文誌）  
特に迅速審査と新たな若手研究者の論文公表の場をスムーズにしたい。
- ・研究能力の向上（大型研究費の獲得・若手研究者支援・ガイドライン作成）  
若手研究者が参画でき、学習の機会を得られるように考えている。  
\*日本看護科学学会において、若手研究者は45歳未満を指す。
- ・国際化の促進（学会発表助成・海外研究助成）  
特に若手研究者には2021年度から国際学会での発表や海外留学での研究活動に関する助成を開始しており、支援を行うことで国際化を進めていく。

## (2) 研究活動の推進

- ・研究助成制度の創設（現在検討中）  
新たな研究助成制度の創設を検討している。具体的には大学院生が応募できるものと会員の研究活動を支援するものの2つの助成制度を創設し、挑戦的課題と指定課題として研究の支援を行う。年間1千万円程度で、まずは3年間の実施を検討している。
- ・社会貢献の推進  
看護界に所属していない若者に対するWeb教材を開発する。また、学会員にはオンラインでの学習機会を増やすことでいつでもどこでも何度でも学べる環境を提供したい。
- ・研究倫理体制の充実
- ・COVID-19関連研究の推進
- ・他学問分野の学会との連携  
現在も日本心理学会や日本薬理学会と連携したシンポジウムを企画しているが、こうした連携をさらに発展させていきたい。

## (3) 将来を見据えた法人運営

- ・会則の整備・財産の検討  
決算時に監事から指摘のあった遊休財産を含めた今後の財産管理の検討を行う。
- ・事務局環境の改善による事務処理の効率化  
ヒューマンエラーを防ぎ、より確実な事務処理と会計処理について構築を進めていきたい。また、併せて事務所環境の改善も検討し、会員1万人の学会としてより確実な法人運営を推進する。

上記について、引き続き理事会および監事の先生方のご指導を頂きながら進めていきたいと思っている。

オンライン出席の堀井様より質問があり堀内理事長が回答された。

**Q.** 理事長ビジョン（2）他学問分野の学会との連携について、具体的にはどのようなことか。

**A.** 学術集会においてシンポジウムなどを他学問分野（第41回学術集会では日本薬理学会や日本心理学会など）と実施することや、委員会などの活動を通して他分野との連携を図りたいと考えている。

例えば、研究・学術推進委員会では、大型研究費申請などにおいて他分野の専門

家を研究者として招き、チームとして活動している。若手研究者活動推進委員会では、理工学や工学系との協働研究などを行っている。こうした動きは他の委員会でも取り入れていくことが期待され、このような活動を通して他分野学会との連携を図りたいと考えている。

## 2. 委員会のミッションと2022年度事業計画について

画面上に各委員会のミッションと2022年度事業計画が表示され、各委員会は会務分掌に基づき、継続して下記の活動を行っていく旨、中村幸代総務担当理事より説明があった。

- 和文誌編集委員会：日本看護科学会誌の編集・発行  
(投稿規程と執筆要領、査読ガイドライン等の見直しによる運用の向上を行い、投稿数の向上を図る)
- 英文誌編集委員会：Japan Journal of Nursing Scienceの編集・発行  
(迅速査読の継続、インパクトファクターの向上 等)
- 表彰論文選考委員会：表彰論文と学術集会演題の選考、公開、表彰を実施  
(論文投稿数および研究力の向上 等)
- 研究・学術推進委員会：会員の看護学に関する各種研究の推進を支援  
(大型研究費獲得のための支援の継続 セミナーの開催 等)
- 看護ケア開発・標準化委員会：看護技術を開発標準化するモデルを構築  
(ガイドライン作成グループ支援の継続 レビュー論文の公開 等)
- 若手研究者活動推進委員会：未来の看護学を創造・想像する土台を構築  
(若手研究者のネットワークの活性化、セミナーの開催 等)
- 国際活動推進委員会：看護学の国際活動の推進  
(国際学会での研究発表増加への支援、海外学術団体との交流 等)
- 看護学学術用語検討委員会：看護が扱う専門用語の概念的統一を図る  
(電子システムを利用した看護用語の公開と新たな用語の追加 等)
- 社会貢献委員会：看護学の研究活動を通して人々の健康と福祉に貢献  
(学術集会での市民公開講座の開催 次世代育成に向けた新たな企画 等)
- 広報委員会：看護学を広く発信し人々の健康と保健・医療・福祉に貢献  
(ホームページの拡充とデジタル利用による新たな広報活動の充実 等)
- 看護倫理検討委員会：倫理的課題を整理し研究者モラルの向上を図る  
(看護倫理の遵守、研究活動の不正防止に関する啓発活動の実施)
- 利益相反委員会：役員、委員、投稿者や発表者を対象にCOI状態の申告を求め、評価を実施  
(指針、細則、COI申告書の見直しを行う)
- 研究倫理審査委員会：看護研究の倫理的配慮がなされているか審査する  
(申請による審査の実施、利益相反委員会との連携)
- 災害看護支援委員会：看護系学会との連携により災害時活動内容を検討  
(研究課題に関する情報収集、支援に関する調査と論文作成 等)
- 若手研究者助成選考委員会：若手研究者への助成を実施  
(若手研究者の国際学術集会への出席、海外留学)
- 会則等委員会：定款や規程類、申し合わせ事項等についての管理・運営を実施

(定款の改正の必要性や規則等見直しの必要性を検討)

- COVID-19看護研究等対策委員会：COVID-19状況下での研究活動の実践を検討  
(「新型コロナウイルス感染症による日本看護科学学会会員の研究活動への影響」第2回調査を行い、After-Withコロナ時代の方針を作成する)
- 総務委員会：会員管理と事務所管理を円滑に行う

### 3. 2022年度予算について

画面に示された収支予算書について、会計担当の石橋みゆき理事より説明があった。総収入と総支出の差異(収支差額)は△12,834,000円であり、社員総会で承認された旨、報告があった。

【質疑応答】議長は質問を促したが、特に質問はなかった。

### 4. 名誉会員の就任報告

総務担当の中村幸代理事より、中村恵子氏の名誉会員就任が報告され、併せて経歴が紹介された。

### 5. 第44回日本看護科学学会学術集会会長の選任報告

総務担当の中村幸代理事より、2024年開催の第44回日本看護科学学会学術集会会長として、前田ひとみ氏(熊本大学)が選任された旨、報告があった。

【質疑応答】議長は質問を促したが、特に質問はなかった。

## V. 審議事項 理事会への意見

議長は質問を促したが、特に質問はなく、議事は終了した。

## VI. 第20回学術論文優秀賞・奨励賞 表彰

表彰論文選考委員長の亀井理事が表彰者3名を紹介し、3名の受賞者より受賞の挨拶があった。対象論文は以下となる。

### 【優秀賞】

- ・松本勝氏 他

「Deep learning-based classification of rectal fecal retention and analysis of fecal properties using ultrasound images in older adult patients」

Japan Journal of Nursing Science (2020) Volume 17, Issue 4(e12340)

- ・吉田美香子氏 他

「Safety and the effectiveness of a new education program for nurses to assess swallowing function using fiberoptic endoscopic evaluation of swallowing(FEES)」

Japan Journal of Nursing Science (2020) Volume 17, Issue 2(e12313)

## 【奨励賞】

・阿部麻里氏 他

「Incidence, risk factors, and assessment of induration by ultrasonography after chemotherapy administration through a peripheral intravenous catheter」

Japan Journal of Nursing Science (2020) Volume 17, Issue 3(e12329)

## VII. 第42回日本看護科学学会学術集会会長 挨拶

第42回学術集会会長森山美知子氏より、以下の挨拶とプロモーションビデオ放映があった。

学会のテーマは、現在日本学術会議看護分科会が進めるケアサイエンスの構築についてである。これまで日本の看護界が築き上げてきたケアの重要性を踏まえながら、人工知能やデジタル技術などの新しい分野を取り入れ、看護分野、看護教育の発展に関して若手からベテランを交えてディスカッションできる場となるようにしたいと思っている。

看護がコロナ禍の創意工夫で出された新しい教育技術、今後日本の看護教育が国際的な認証に耐えうる体制に備えていくためには何が必要なのか、各国の看護政策、教育担当者とも話し合っていきたい。

最後に看護の基礎科学をどのように社会実証、トランスレーションしていくのか、海外との国際共同研究がどこまで進み新たな知が生み出されているかをご紹介し、若手研究者や社会実践をしっかりと発掘し取り上げていきたいと思う。

コロナが収束することを願って、新しい形でのカンファレンスに作り上げ、国内で家庭や学内行事のために現地参加が難しい方も、海外におられる卒業生や留学生にも参加して頂けるよう、現地開催とオンラインを組み合わせでの開催を予定している。ぜひ、多くのご参加をいただければ幸いである。

## VIII. 閉 会

司会の法橋副理事長より、最終的な出席者正会員数は委任状を含めて合計2,028名となり、学会総会が成立していることがあらためて報告された。

以上をもって、第41回公益社団法人日本看護科学学会総会が閉会した。

この議事録が正確であることを証するため、議長及び議事録署名人により以上の議事を認め  
記名押印する。

2022年 2月 10日

議 長            百瀬 由美子            印

議事録署名人    岩田 由香            印

議事録署名人    大河内 彩子           印

# 第41回 公益社団法人 日本看護科学学会 学会総会 優秀論文表彰（優秀賞・奨励賞）

日 時 2021年12月4日（土）16：30～17：30（予定）  
場 所 WEB開催 公益社団法人日本看護科学学会事務所ほか

## 【議事次第】

- I. 開 会
- II. 理事長挨拶
- III. 議長指名および議事録署名人の承認
- IV. 報告事項
  1. 理事長のビジョンと運営方針
  2. 委員会のミッションと2022年度事業計画について
  3. 2022年度予算について
  4. 名誉会員の就任報告
  5. 第44回日本看護科学学会学術集会会長の選任報告
- V. 審議事項 理事会への意見
- VI. 表彰
- VII. 第42回日本看護科学学会学術集会会長 挨拶
- VIII. 閉 会